

住みやすいまちづくりを求めて —日米の都市環境の比較を通して—

岡山県立教育センター

大月 隆昌

広島市立口田中学校

野村 隆之

岡山県立笠岡商業高校

大西幸之助

1 教材作成の意図

私たちが、「住みやすいまちづくりを求めて」の教材化を図った意図は次のとおりである。

環境教育の教材は、ややもすると地球の温暖化現象、酸性雨、フロンガスによるオゾン層の破壊、二酸化炭素の排出量の規制、大気・水・土壤の汚染、化石燃料資源の枯渇（石油、石炭）、生活・産業廃棄物の処理、そして、エネルギーにかかわる問題などの教材化に傾きがちである。これらは明らかに大きな環境問題であり、教材化の対象になるものではあるが、学校における環境教育では、単にこれらの諸問題を知識として取り上げるだけでなく、学習指導要領の内容を踏まえ、環境教育を目指す能力・態度の育成に配慮した扱いが必要であると考える。

そこで、これらのことと踏まえ、次の3点に留意して小学校社会科における環境教育の教材化を図ることにした。

① 環境に対する興味・関心を高める

環境に対する永続的な興味・関心は、身近な地域で起きている社会的な事象や毎日の生活に見られる事象でありながら、何気なく漠然と見過ごしているものを、環境教育の課題として意識することによって与えられる。

② 環境教育的視点から内容をとらえる

環境教育は、幅広く、教材になる素材も多い。学習指導要領に示された内容の中には、一見、環境教育には関係がないように思えながら、扱う視点を変えて見ると、身近な地域の中に環境教育の適切な教材になるものがある。

③ 多様な学習の展開を図る

環境にかかわる学習では、観察や調査の対象に拡がりがあるので、地域の実態や生徒の興味・関心に応じた多様な教材を開発する必要がある。また、教材開発に当たっては、児童生徒の興味や関心のある「身近な地域」の中で教材化を図ることは意義があると考える。また、児童生徒が主体的に学習に取り組むためには、教材とともに、「問題解決的な学習」や「適切な課題を設けて行う学習」を行うことも大切である。

以上のことと踏まえ、小学校社会科における環境教育の教材開発に取り組んだ。環境教育を通して児童に培うものとして次の4点を考えた。

- ① 身に回りの環境に関心をもち、その存在価値を認めるとともに、環境保全のために、自分は何をすることができるのか考えられること
- ② 環境の状況やその変化を観察し、表現することができること
- ③ 児童自身が直接にかかわることのできる範囲内で、地域の環境保全に積極的に働き掛けようすること
- ④ 自分を取り巻く身近な地域、国土の自然・社会環境について、発達段階に応じて、基礎的・基本的な知識や概念を習得し、「環境は人をつくり、人は環境をつくる」ことが分かるようになること

小学校学習指導要領社会には、「まちづくり」という語句は使われていないが、一つ一つの語句や文章を吟味していくと関連のあるものが浮かび上がってくる。第3学年の目標及び内容には、次のように示されている。(一部抜粋)

- 1 目標(2) 「地域の人々の生活は、自然環境と結びついて営まれており、地域によって消費生活や生産活動に特色があることや人々の生活の様子は変化していることを理解できるようにし、地域社会を大切にする態度を育てる。」
- 2 内容(1) 「・・・・・・地域の人々は協力して生活の向上や住みよい環境づくりに気付くくようにするとともに、自分も地域社会の一員として協力できるようとする。」

「住みやすいまちづくりを求めて」は、小学校での学習とともに、中学校社会科の地理的分野や公民的分野でも扱うことができる。地理的分野と公民的分野の学習指導要領の目標(内容)は、次のように示されている。(一部抜粋)

地理的分野

- 1 目標(4) 「自然及び社会条件と人々の生活の関係は人間の活動によって絶えず変化し、それに伴って地域も変容していることに気付かせ、環境や資源と人々の生活とのかかわりについて考えさせる。」
- 2 内容(2) 日本とその諸地域 イ 身近な地域 「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を通して地理的な見方や考え方の基礎を身に付けさせるとともに、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせる。
・」

公民的分野

- 1 目標(2) 「・・・・・・現代の社会生活における個人の役割などについての理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。」

学校における環境教育は、経済・社会問題、科学技術、生活環境などと関連した内容の習得だけにとどまらず、環境に対する豊かな感受性と見識に基づいて、環境問題の解決に必要な的確な判断と自分なりの意志決定ができる能力や態度を育成する必要がある。

そのため、本教材で日米の都市環境（総社市とグリーンビル）を比較することにより、自分の住む「まち」の現状を把握し、問題点を考え、解決策が提案できる児童生徒を育成したいと考えた。また、将来を担う児童生徒が自分たちの住む「まちづくり」を考えることは、環境問題への対処、環境保全への努力にもつながるとともに、生涯学習社会にふさわしい「まちづくり」の基礎を培うものと思う。

2 「住みやすいまちづくり」について

(1) 「まちづくり」について

「まちづくり」という呼び方が、地域や都市の環境整備を指す一般用語として定着してきたのは、近年のように思われる。「まちづくり」の外に「街づくり」や「町づくり」も用いられる。

「街づくり」からは、街路や街灯を連想させ、もっぱら市街地における物的環境整備を中心とした内容を連想させる。また、「町づくり」からは、市町村としての「町」や住居表示の「町」を連想させ、特定の「町」を対象とする環境整備のイメージを抱かせる。

これらの用語に比較して、「まちづくり」は、「まち」とひらかなで表記することに様々なものを含み、対象とする地域の規模が大きい場合でも小さい場合でも用いることが可能である。「まちづくり」からは、身近な実感を伴う小社会を意味し、英語の「コミュニティ」より「タウン」の方がより近い意味をもつようと思われる。

「まちづくり」には、物的な環境整備を中心とした「何をつくるか」だけでなく、「だれがつくるか」「どのようにしてつくるか」といったことも大切である。つまり、「まちづくり」には、「何を、だれが、どのようにしてつくるか」という視点が大切である。「まちづくり」は、「ひとづくり」といわれるのもこのような視点からである。

(2) 「住みやすいまちづくり」の条件について

「住みやすいまちづくり」の基本は、その「まち」が活性化することにあるように思われる。「まち」が活性化するためには、「まち」の自然が保たれ、施設が充実し、「まち」のイベントがそれらの自然や施設を利用して効率よく開催されることである。つまり、「まち」の活性化は、「まち」の自然を保つとともに、「まち」に「人、物、金、情報」を呼び込み、地域に経済効果と種々の相乗効果をもたらすように思われる。

「住みやすいまちづくり」の条件としては、「まち」の自然的環境、施設的環境、情緒的環境の条件整備が不可欠であると考える。それらの条件整備を行うことにより、「まち」に住む人々も活性化するものと考える。

次に、「住みやすいまちづくり」の条件である「まち」の自然的環境、施設的環境、情緒的環境について説明する。

① 自然的環境

自然的環境には、海、山、川、湖などの自然と公園、並木、広場などの疑似的な自然がある。これらの自然的環境が保たれ、整備されることは、「まち」に住む人

々に「いこい」と「うるおい」をもたらし、「まち」の活性化につながるものと考える。

② 施設的環境

公的施設、文化的施設、歩道、道路、街路灯などの施設づくりが、施設的環境のすべてではないが、施設をつくることは「まちづくり」において意義深いものと考える。施設的環境は、今日では、道路、上・下水道等の普及率を高めることが主体である。また、従来の施設の外に会議・研修・文化・教養等の施設や大学・短大やハイテク企業等を誘致する時代の要請にあった施設・設備づくりも含まれる。

イベントや行事等を誘致したり、開催したりしやすいような施設・設備づくりや道路、上・下水道等の普及、すなわちハードづくりは、「まち」の活性化とともに、「まち」に住む人々の活性化には必要であると考える。

③ 情緒的環境

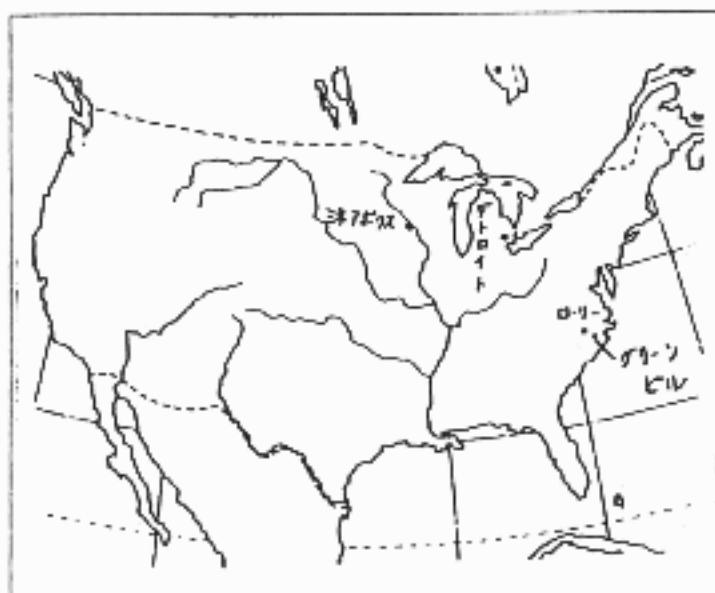
まちに特有の歴史、文化、伝統、祭り、催し、年中行事、「まち」の個性などと結びついて生まれるその「まち」のムード、イメージ、情緒、雰囲気もアメニティの重要な源である。いうまでもなく、その「まち」の情緒は、自然、施設、人間などすべての環境と密接不可分の関係にあり、これらすべてが総合されてその「まち」独自の情緒がかもし出されるといってよい。

伝統的な行事、祭りなどの情緒的な環境は、「まち」の知名度を上げるとともに、住民に「まち」の帰属意識や愛郷心を養うのにも有効である。「まち」の社会的風土を尊重したり、特性を創造したりしながら、「まち」に住む人々が企画と実行に参加でき、多くの人を「まち」に吸引できるようイベント・行事を開催すること、すなわちソフト面の強化も「まち」の活性化には必要であると考える。

このように、「まち」の活性化には、自然的環境、施設的環境、情緒的環境が必要であると考える。しかし、歴史的遺産や文化的施設、レジャー施設や自然がいかに充実し、素晴らしいものであっても、「住みやすいまち」とは限らない。自然や施設などのハードなものに魂を与え、息吹を吹き込んで本当にアメニティに富んだものにするのは人間であり、また施設の維持、管理、運営のシステムであり、そして何よりもその地域の人々の心である。そのためには、施設的環境を例にとると、施設の中に魂の挿入作業をする人、つまりハードとソフトを効率よく連携させる住民を養成する「ひとづくり」が重要であると考える。

3. タカちゃんのアメリカ体験記

僕の名前はタカマサ。タカちゃんと呼んで下さい。中学3年生です。僕はこの夏、アメリカのミネアポリスとグリーンビルという町に旅行に行ってきました。ミネアポリスというのは、アメリカの中西部にあるミネソタ州の大都市です。ミシシッピ川の流域にあるので、水が豊富な町です。グリーンビルは東海岸のノース・カロライナ州にある小さな田舎町です。緑がとってもきれいなところです。



ミネアポリスでは中学校のエンロー先生が町を案内してくれました。まず僕たちは、トローリーという市内バスでミネアポリスを一周することにしました。



ミネアポリス市街



トローリー

タカ 「わあ、大きな街だなあ！僕の住んでいる総社市とは比べものにならないや。あっ！あの大きな川はなに？」

先生 「ミシシッピ川よ。アメリカで1番大きな川なの。ここは上流だからまだ細いけど、南部の下流では、向こう岸が見えないくらい広くなるのよ。」

タカ 「へえ。こんなに北のほうから、南部までながれてるんだ。」

先生 「そうよ。メキシコ湾までね。この川のおかげで、ミネアポリスでは水に困ることはないのよ。」

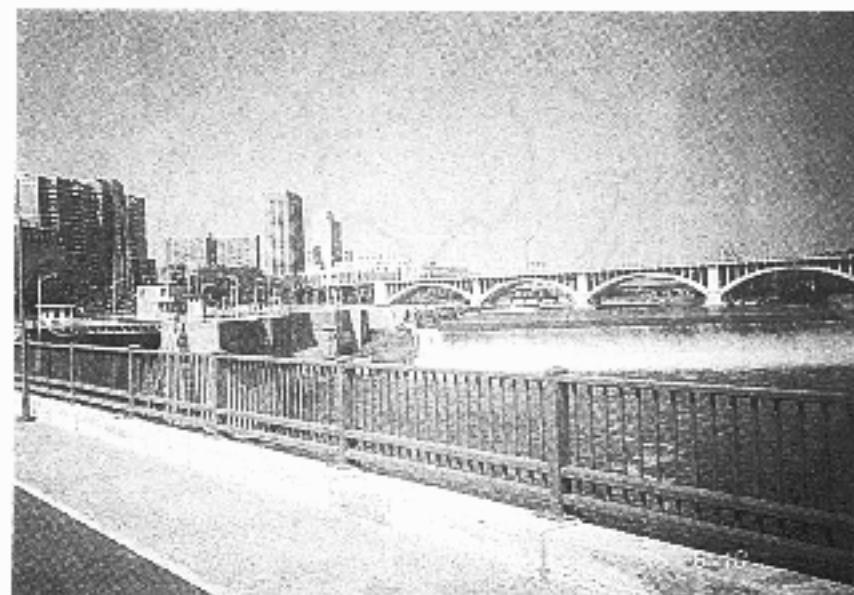
タカ 「あっ！あのビルとビルの間をつないでる渡り廊下みたいいなのは何？」

先生 「あれはね、スカイウェイといってね、ミネアポリスの中心地の大きなビルを網目のようにつないでいるのよ。なぜだか分かる？」

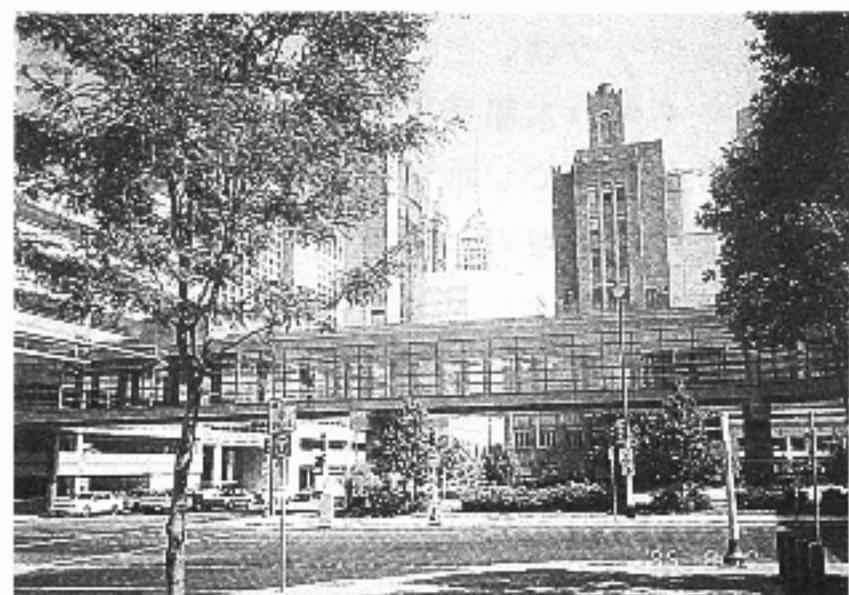
タカ 「う～ん。車が多くて道路を渡れないからかな。」

先生 「そうね、それもあるかもしれないけど、ミネアポリスは冬がとても寒いから、外を歩かずにビルとビルの間を行き来できるようにしてあるの。もちろんスカイウェイの中は暖房がよくきいてるわ。」

タカ 「へぇ～。土地の気候に合わせて、住みやすいように街が作られてるってわけだ。」



ミシシッピ川



スカイウェイ

次の日、僕はミネアポリスの市役所を訪ねて市の職員の人に、いろんな話を聞かせてもらいました。そこで僕は「アメリカの街って進んでるな～。」と思うようなものを見たのです。

職員 「タカくん。わざわざ日本からミネアポリス市役所を見学にきてくれたんだから、普通では見られないすごいものを見せてあげよう。これだ、ひとよんでアポロ・システム。」

タカ 「なんだ。ただの地図じゃないか。これなら僕だって社会の時間に使ってるよ。」

職員 「ちっちっちっ。ところがこれはそんじょそこらにある地図とはわけがちがうんだ。この地図はコンピュータにミネアポリスのありとあらゆるデータを入力して、それをもとにできた地図なんだ。莫大な費用と時間と労力がかかってるんだよ。」

タカ 「ふ～ん。例えばどんなことが分かるの？」

職員 「まず住宅区画。どこのブロックにどれだけ家が建っているかだ。庭の木の数まで分かるんだよ。それから地価だ。街のどの辺の土地が安いか高いかだね。それから人口がどこに集中してるかとかね。」

タカ 「へえ。便利そうだね。でも、そんなことが分かっても、あまり一般市民の暮らしには関係なさそうだな。」

職員 「ところがどっこい。このアポロ・システムは市民の暮らしを少しでも良くするために使われてるんだ。犯罪率の地図がいい例だ。実はミネアポリスは現在アメリカで最も殺人事件が多い街だ。どの地区で犯罪がよく起きているかが分かれば、そこに警察署を増やしたり、パトロールを強化したりできる。もう一つは幼児人口だ。小さい子供が多い地区には幼稚園や託児所を増やせば、お母さんも助かると

いうわけだ。」

タカ 「なるほど。問題解決のための現状把握ってとこだね。すごいや！」



アポロ・システム



区画地図

翌日、僕はミネアポリスを後にして、グリーンビルに旅立ちました。グリーンビルは僕の住む総社市と同じくらいの規模だと聞いています。グリーンビルでは一体なにが僕を待っているのでしょうか。今からドキドキします。

グリーンビルに着いた僕を出迎えてくれたのは、アメリカでも数少ない女性市長の一人、ジェンキンス市長でした。すごく偉い人なのに、とても気さくで僕とも長年の友達のように話してくれました。市長は彼女のオフィスでグリーンビルの市政について説明してくれました。グリーンビルではホライズン計画という9つの目標を設定して、その実現のため日夜努力を重ねているそうです。



ジェンキンス市長

ホライズン計画

- (1) 経済発展の促進
- (2) 環境保護
- (3) 国土利用の適正化
- (4) 地域社会の特色の保全
- (5) 地域社会施設の拡充
- (6) 手ごろな住宅の提供
- (7) 交通機関の改善
- (8) 娯楽機会の創設
- (9) 市民の市政参加

タカ 「はじめまして、ジェンキンス市長。日本から来ました、タカマサです。総社から持ってきたこの扇子をどうぞ。」

市長 「グリーンビルへようこそ。まあ、素敵な扇子をありがとう。」

タカ 「この部屋には日本のものが沢山ありますね。日本に友達がいるんですか？」

市長 「グリーンビルはね、日本との交流が盛んなのよ。日本の会社も沢山入ってきてるわ。自動車部品会社のASMO（アズモ）なんかがいい例ね。もともとグリーンビルはタバコ産業で発展した町だけど、農業だけでは限界があるの。さらに発展を続けようと思えば産業基盤をしっかりさせないとね。それにグリーンビルにあるイースト・カロライナ大学の優秀な卒業生の就職口の確保のためにも、企業の誘致は必要なのよ。」

タカ 「なるほど。」



アズモ社工場



タバコ畑

タカ 「でも工場が増えると環境汚染が心配だね。ここに来る途中で大きな川を見たけど、川の水質は大丈夫なのかな？」



ター川（グリーンビル）



高梁川（岡山県総社市）

市長 「ああ、ター川のことね。グリーンビルの水源はほとんどこの川から取っているか

ら、確かに汚染が進むと大変なことになるわね。でもね、工場なら何でもいいというわけではないの。鶏肉加工とか重化学工業とか水質汚濁の危険性が高い企業は遠慮していただいているよ。あと家庭の排水も住宅の地下にタンクをつけて、きれいにしてから川に流すようにしているの。グリーンビルの財政は農業にかなり依存しているから、農業用水を規制するのは難しくてね、そのぶん工業排水と家庭排水の規制は厳しくしているのよ。」

タカ 「ふ～ん。いろんな事情があるんだね。そういえば僕の住んでる総社市にも高梁川っていう大きな川があるけど、周辺の工場はカルビスとかヤマザキパンとか、あまり水質汚濁をしないものばかりだな。」

市長 「まぁ、グリーンビルとよく似ているわね。」

タカ 「うん。国は違っても、人間が住みよい町作りのために考えることは、一緒なんだね。」

市長 「そうね、いいところに気付いたわね。」

次に僕は、現在建設中のグリーンビル警察署を訪ねた。工事が完了すれば消防署が同じビルの中に移転して来るそうだ。ちょっとこわもてのヒンマン署長に警察署内を案内してもらった。



ヒンマン署長のオフィスで



目下移転中の消防署

署長 「ようこそグリーンビル警察署へ。なにも警察だからって、そんなに固くなることはない。君は善良な市民なんだから、リラックスしたまえ。」

タカ 「はい。それにしても、警察署と消防署が同じ建物の中にあるというのは珍しいですね。」

署長 「警察官と消防士は一緒に出動することが多いからね。近くだといろいろ便利なんだよ。もちろんアメリカでは比較的新しい試みだ。では、署内を案内してあげよう。ついてきたまえ。」

タカ 「この大きな機械は何ですか？」

署長 「これはね、犯罪者の指紋を登録する機械だ。FBIのコンピュータとつながって

いて、一度登録されると、アメリカ国内のどこで犯罪を犯しても識別できる。君も指紋をとってみるかね？」

タカ 「はい。わ～！出てきたよ。これでもう悪いことできないな。」



指紋登録機



登録された指紋

署長 「この部屋は何だか分かるかね？」

タカ 「う～ん？託児所みたいだけど。」

署長 「虐待や性的暴行を受けた幼児をリラックスさせる部屋なんだよ。アメリカの社会問題の一つになっているが、幼児虐待が非常に多いんだよ。特に性的暴行を受けた幼児はショックで口をきけなかったり、恥ずかしくて事件の様子を説明できなかったりすることが多い。そんな時はこのように人形を被害者の体に見立てて事情聴取をしたりするんだ。」

タカ 「なるほど。どうもいろいろありがとうございました。勉強になりました。」

署長 「なになに。おやすいごようさ。よかったです記念にパトカーに乗っていきなさい。」

タカ 「うわ～、すごいや！」



子供部屋



人形で事情聴取

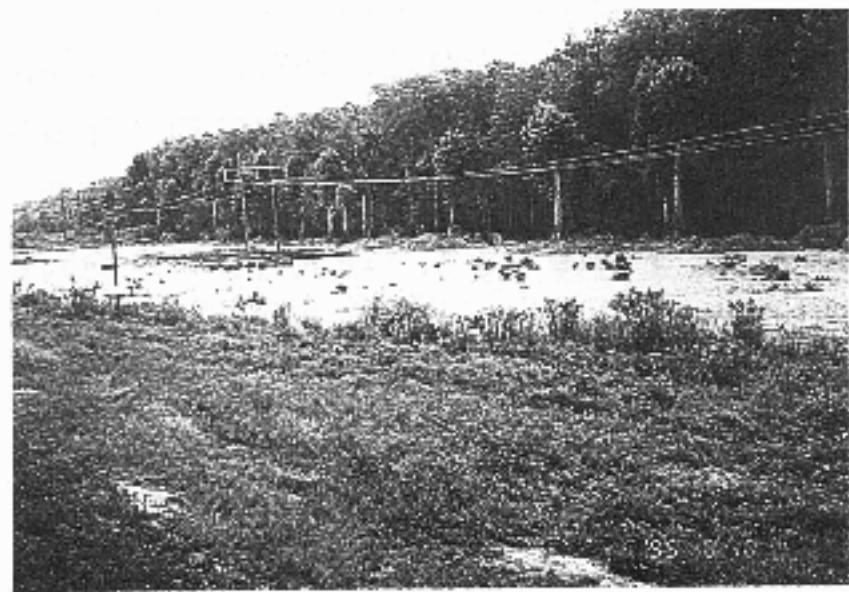


パトカーに乘る

最後に僕は郊外にあるノースリバー・パークを見学しに行った。ピクニック場やボート乗り場などがあり、市民の憩いの場であるとともに、野生植物や野生動物の保護地区になっていた。なかでも、ビーバーが作ったというダムの大きさにはビックリした。一体何千頭のビーバーがいたらこんなにすごいダムができるんだろう。



ノースリバー・パーク内の沼



ビーバーのダム

また、公園内にある科学自然センターでは、アメリカ中の野生動物の標本が展示されていた。オヤッと思ったのは、沢山の動物の剥製の中に、なぜか空カンやゴミくずが展示されていることだった。よくみると、ゴミをリサイクルしようという遊びかけだった。きれいなものばかりでなく、汚いものも展示しているアメリカの博物館はすごいなと思った。ここを訪れる人達も環境破壊について考えるきっかけになるだろう。



自然科学センター



ゴミの展示

これで僕の長かった旅も終わりです。ミネアポリスもグリーンビルも僕の住む総社と同じくらいいい町でした。でもそれぞれに問題は抱えているようです。「住やすい町」ってなんなのか。住やすくするために、僕たちは何ができるのか。いろいろ考えさせられた旅でした。なんだか生まれ育った町が恋しくなりました。明日の帰国が待ちきれません。それでは、この辺でペンを置くことにします。

4 日米（総社市とグリーンビル）の都市環境の比較

(1) 総社市とグリーンビルの概観

①総社市の概観

総社市は、岡山県の南部に位置する人口約55,000人あまりの「まち」です。東には岡山市、南には倉敷市、北には高梁市があり、市の中央を岡山県の三大河川の一つである高梁川が流れている。

総社市の面積は、 192.34 km^2 （岡山県下では5番目の面積）である。吉備高原の一画を形成している北部は約3分の2が森林地帯で、南部は高梁川がつくった沖積平野が東西に広がっている。気候は、年平均気温摂氏約16度、年間降水量約1,300mmと温暖で少雨（雨の日数年平均56日）である。

農業では、米作とともに、ネオマスカットの生産が多く、工業では、自動車、食料品、繊維関係の工場がある。

市内には、幼稚園16園、小学校13校、中学校4校、高等学校2校、大学が1校ある。

「総社」の地名は、備中国の324社の神々を合祀したところ（総社宮）から名付けられたものである。この地は、古くから温暖な気候と肥沃な土地、豊かな水に恵まれ古くから豊かな文化を育んできた。古代吉備の国を中心地として栄えたこの地は、大和や九州の古代文化圏に匹敵する文化をもち、その独自性を物語る数々の遺跡や史跡、伝説を今に伝えている。

総社市は、市の特性である「歴史と伝統のある古代吉備文化」と、「美しい自然や恵まれた風土」を守り育て、これらを21世紀へと引き継いでさらに発展させるため、その将来都市像を「古代と21世紀を結ぶ風格ある文化創造都市」と設定している。市民自らが積極的にまちづくりに参加して新しい文化を生み出し、豊かに「住まい、働き、学び、憩う」ことができる「まち」を目指している。

②グリーンビルの概観

グリーンビルは、今から約220年前の形成期には、「マーチンズボロー」と呼ばれていたが、1786年、ギルフォード・コートハウスの戦いの英雄ナザニエル・グリーン将軍にちなんで「グリーンビル」と呼ばれるようになった。現在、その名の通り、広々とした平原にあって、木々や畑の縁が大変美しい「まち」である。

グリーンビルは、独立13州の一つノースカロライナ州（N.C.）にあり、東地区ピット郡（Pitt County）の中心都市である。合衆国の首都ワシントンD.C.から南西に約430km、州都ローリー（Raleigh）からは西に約135kmの距離にある。まちの面積は 44 km^2 、人口は47,400人（1991年）で、人種の構成は、白人64%、黒人34%、その他2%である。気候は、年平均気温摂氏15.5度、年間降水量約1,000mmである。

このまちの主産業は農業である。特にタバコの生産は、アメリカ合衆国最大で、その多くを日本にも輸出している。その他、大豆、トウモロコシなどが生産されている。最近は工業化にも力を入れ、自動車部品など様々な工業が発達している。

「大学のまち」としても有名で、イースト・カロライナ大学（ECU）には、17,757人（1992年）、ピット・コミュニティ（PCC）には4,500人が在籍している。

見学や写真撮影の可能な自然的環境と施設的環境を中心に教材化を図った。

(2) 総社市とグリーンビルの自然的環境

① 総社市の自然的環境

総社市は、温暖で雨が少なく、風水害や雪害、干害などの自然災害もほとんどなく、気候的には恵まれている。地形は、吉備高原から瀬戸内海へと広がる多様な地形の中にある。市の3分の2は森林（山間部）で、市の中を流れる高梁川と周辺には沖積平野が広がっている。

古代吉備の国（古代の総社地方）が栄えた理由の一つに、生活の基盤となる自然的環境に恵まれていたことが挙げられる。つまり、温暖少雨、豊かな水、広い平野、森林など当時の人々が暮らすのにこの地が大変住みやすかったと考えられる。

総社市の市民憲章の中にも自然的環境に関することがうたわれている。次に市民憲章の一部を紹介する。

「わたくしたちは、美しい自然と豊かな吉備文化に恵まれて育った総社市民です。わたくしたちは、このことに誇りと責任を感じ明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

1 自然を大切に 美しい環境をまもりましょう

（略）

1 たがいに助け合い あたたかいまちをつくりましょう」

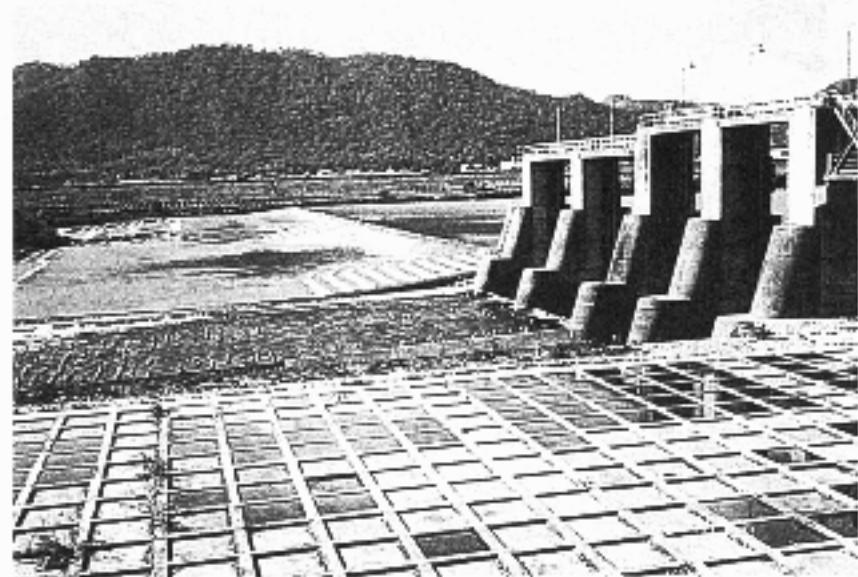
総社市は、水（高梁川や十二箇号用水）と緑（森林）に恵まれ、広い田園風景も見られる。桃やネオマスカットの畠も多く、山間部には、自然を利した名勝である鬼ノ城、豪渓、高間キャンプ場などがある。

市街地に公園が少ないが、郊外には自然環境を利用した砂防公園（見延）、砂川公園（黒尾）、森林公園（黒尾）、総社北公園（福井）などが次々と設けられた。それらの公園内の設備（学習、スポーツ、キャンプ、遊具、駐車場）は、充実している。公園などを含め、自然環境の保全と開発のバランスが今後の課題である。

高梁川の水は、上水、工業用水、農業用水に使用されている。



山あいを流れる高梁川（昭和町）



市街地を流れる高梁川



国分寺五重塔と田園風景



自然を利した砂川公園

② グリーンビルの自然的環境

グリーンビルは、気候、人口、産業など総社市とよく似ている。グリーンビルの2010年を目指したまちづくりのための将来計画を立てている。その内容は次のような目的として示されている。

「①経済開発の促進、②環境保全、③健全な土地利用の促進、④地域社会の特質の保持、⑤地域社会の施設の拡大、⑥住宅の供給、⑦交通機関と道路、⑧新たなレクレーション施設の拡大、⑨市民の参加を促進する」

この中には、自然的環境はもちろんのこと、施設的環境、情緒的環境に関する内容も含まれている。

グリーンビルは、総社市と同じように水（ター川）と緑に恵まれている。近年、農薬等によりター川が汚染されつつあり、現在、工場や家庭では、下水等の規制をしている。



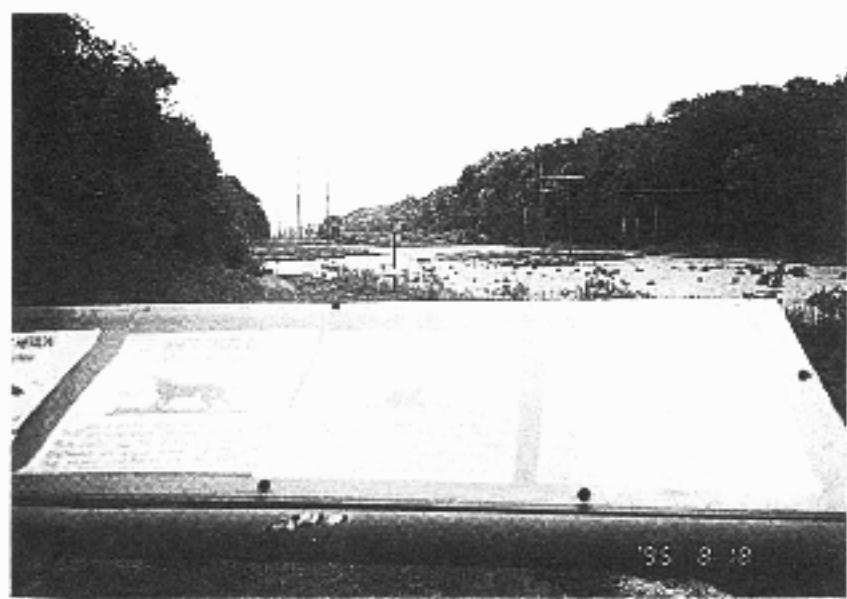
グリーンビル市内を流れるター川



ター川に近いタウンコモン公園



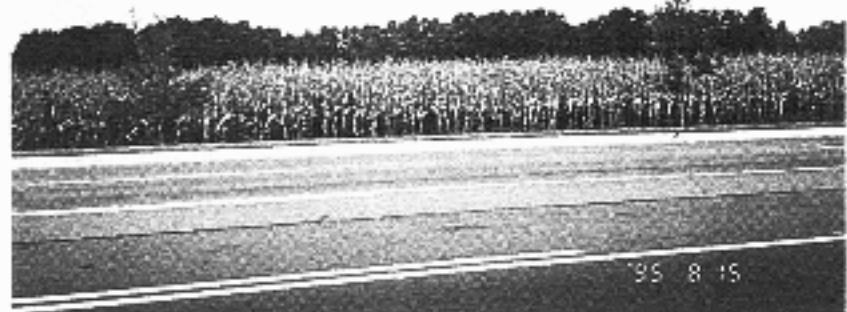
ノースリバー・パーク内の人口の池



野生動物を保護するノースリバー・パーク



郊外のタバコ畑



郊外のとうもろこし畑

③ 総社市とグリーンビルの自然的環境について感じたこと

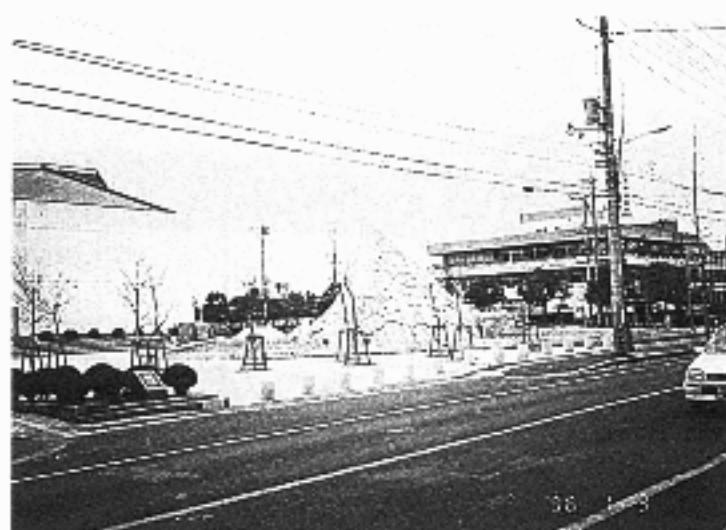
(2) 総社市とグリーンビルの施設的環境

① 総社市の施設的環境

鉄道（JRの伯備線、吉備線）、道路（国道、山陽自動車のインターチェンジ）
市民会館、大学、図書館、郵便局、消防署、警察署、保険福祉施設、体育施設、
大型店舗、工場などほとんどの施設はあるが、美術館、博物館、総合病院がない。
数年後には、中国横断自動車道やJRの井原線も開通する予定である。



総社駅（伯備線、吉備線）



神が辻と市役所



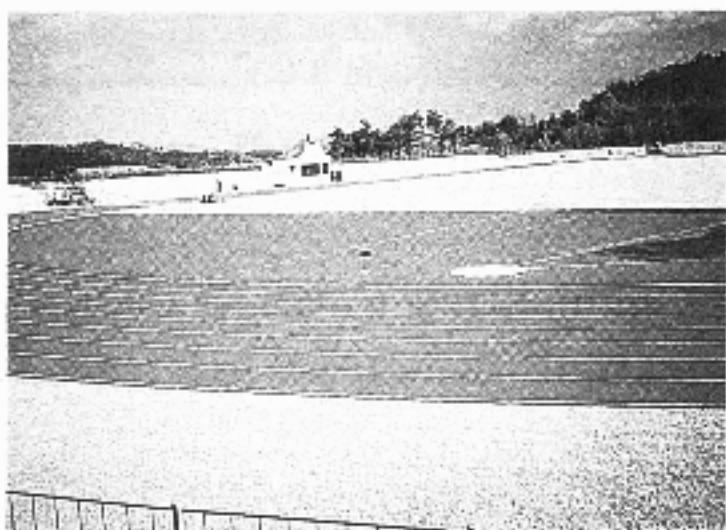
「総社」の地名の由来の総社宮



岡山県立大学（遠景）



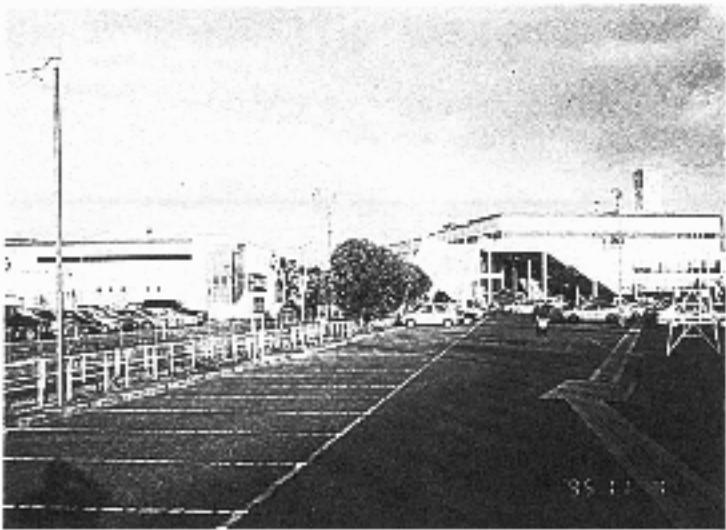
水島機械金属工業団地（西団地）



総社北公園内にある陸上競技場



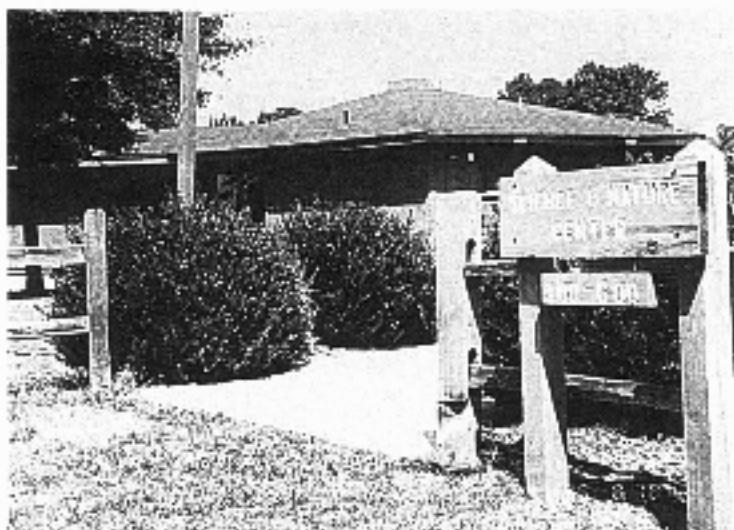
吉備路自転車道



大型店舗とスポーツ施設

② グリーンビルの施設的環境

交通の中心は、自動車で駐車場には、どこでも障害者専用の駐車場を確保している。大学とメディカルセンター、タバコ畑を中心としたまちだけに工場が少ない。郊外に近年、ASMOなどを中心とした工業地帯が形成された。現在、市では、コンピュータ、自動車、薬品などの工場の誘致を考えている。



自然科学センター



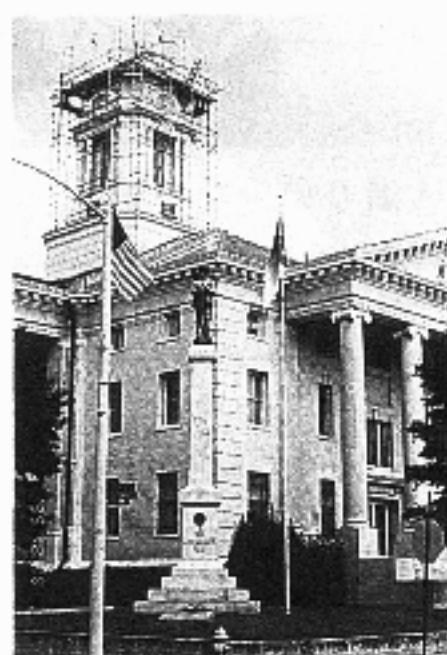
イースト・カロライナ大学 (ECU)



メディカルセンター



大型店舗と駐車場



裁判所

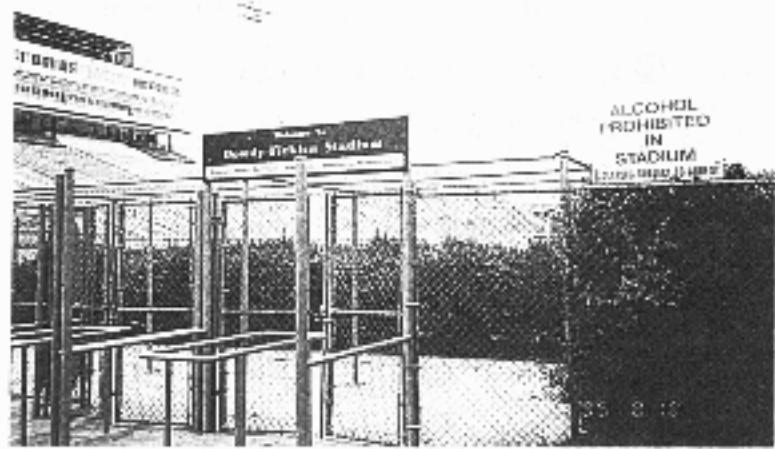


障害者用の駐車場

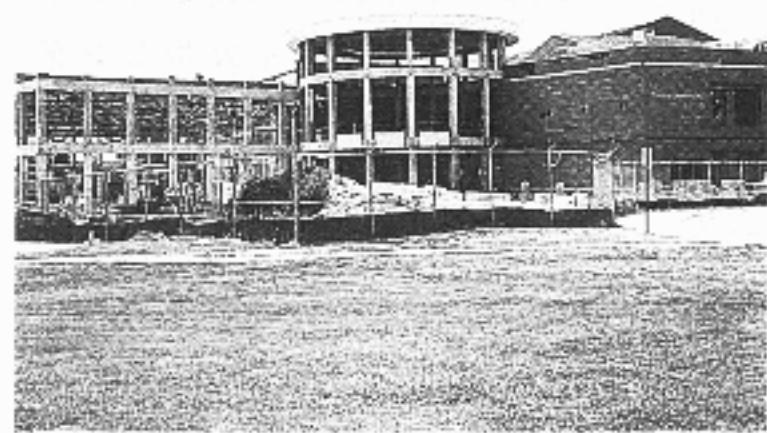


障害者用の駐車場

(罰金額も明示)



アメリカンフットボール場（ＥＣＵ）



建設中の体育館



郊外にある老人ホーム



郊外にある工業地帯



交差点（横断歩道はない）



夏休み中で人通りの少ない通り

③ 総社市とグリーンビルの施設的環境について感じたこと

[Large empty rectangular box for notes or drawing.]

(4) 総社市とグリーンビルの情緒的環境

総社市の情緒的環境としては、吉備路れんげまつり、市民まつり（花火）、雪舟フェエスタ、備中神楽、備中温羅太鼓など四季を通して催し物があり、充実している。まちづくりの推進のため、総社市が主催して「仕掛け人塾」を開き、「ひとつくり」を行っている。

グリーンビルは、住民同士よりも、家族や職場の結びつきが強く、独立記念日などに野外広場で催し物があるくらいである。

総社市の平成7年8月の調査（市民1,000人を抽出）「あなたは、現在住んでいるところについて、どのように思われますか」によると、「まあまあ住みよい」が39.8%、「普通」が35.8%，「たいへん住みよい」が14.0%，「住みにくい」が7.7%，「非常に住みにくい」が2.5%，「不明」が0.2%であった。

5 あなたが考える「住みやすいまちづくり」とは

(1) 自然的環境

(2) 施設的環境

(3) 情緒的環境